

## 東北関東大震災における北海道東北ブロック事務所の対応について

### 1. 対策本部の設置

- ・ 3月11日（金）地震発生後の15時10分、北海道東北ブロック事務所1階に災害対策本部を設置。
- ・ 本部長以下ブロック事務所職員が、東北管内15病院の被災状況把握。
- ・ ブロック事務所職員は24時間体制をとり、管内病院の被災状況把握、人的及び物的支援を実施。日中は全職員対応、夜間は当直体制をとり地震発生後1週間は約8名体制で対応。
- ・ ブロック車1台、職員車3台の緊急通行車両登録を行い、被災病院への職員派遣体制及び物資搬送体制の確立。
- ・ 通信不能となっている被災病院（釜石病院、宮城病院、いわき病院）に衛星携帯電話を手配し、通信手段を確保。



【対策本部にて施設状況把握】



【緊急通行車両】

### 2. 管内病院の被災状況の把握

- ・ 東北管内病院のライフライン（電気、水道、ガス等）、入院患者、病院職員及び建物等の被災状況把握。
- ・ 仙台医療センター対策本部の対応状況について、情報収集し情報共有。
- ・ 東北の各病院の被災状況等について、管内病院へ情報提供を実施。
- ・ 病院運営上、必要となる物資（患者食料・飲料水・燃料等）の在庫確認を行い、病院運営に支障をきたさないよう、自治体及び本部に不足物資を要請。

- ・ 3月17日（木）にブロック担当理事が塩竈地区の被災状況確認のため現地視察。
- ・ 3月19日（土）に機構本部総務部長及び統括部長が岩手病院及び釜石病院の被災状況確認のため現地視察。
- ・ 3月20日（日）にブロック担当理事及び統括部長が宮城病院及び西多賀病院の被災状況確認のため現地視察。
- ・ 東北管内病院職員の安否状況確認。
- ・ ブロック事務所施設整備室職員を被災病院（仙台医療センター、西多賀病院、宮城病院）へ派遣し、建物被害状況の把握、今後の対応策の支援を実施。
- ・ 管内病院へ東北電力による計画停電の実施計画を周知すると共に、対応策を指示。



【ホワイトボードで各病院の被災状況等共有】

### 3. 通信及び移送手段の確保

#### ・ 衛星携帯電話の確保

（株）NTTドコモ東北支社から借用し、通信不能病院への通信手段を確保。

管内病院へ電話連絡したところ、全く通信が出来ない病院が3病院。（釜石病院、宮城病院、いわき病院）

3月13日（日） （株）NTTドコモ東北支社に出向き、衛星携帯電話を1台借用。  
ブロック事務所職員が、宮城病院に緊急車両を使用し搬送。

3月13日（日） 釜石病院で借用できる衛星携帯電話について、（株）NTTドコモ  
～14日（月） 東北支社と折衝し、盛岡病院を通じて釜石病院に携帯衛星電話を1台搬送。

3月14日（月） （株）NTTドコモ福島支店（福島市）と折衝し、いわき病院に衛星携帯電話1台を借用し、NTTドコモ福島支店が直接いわき病院に搬送。

・緊急通行車両の登録

被災病院への職員の派遣及び物資移送の迅速かつ円滑な手段を確保するため、ブロック事務所及び管内病院にて緊急通行車両の登録。

3月13日（日） 宮城県公安委員会に出向いてブロック車1台と職員車3台の計4台を登録。

3月16日（水） 管内病院に対し、緊急通行車両の登録を指示。（手続き方法等をメールで連絡）。



【緊急通行車両確認証明書】

#### 4. 不足物資の把握及び調達、各病院への搬送

・毎日、各病院の情報収集を行い、病院のライフラインに直結する物資の調達を機構本部、厚生労働省を通じて首相官邸に依頼。（食料、飲料水、燃料等）

・各病院間の調整を行い、必要な病院への物資の補給を依頼。

3月13日（日）	山形病院から宮城病院へ	食料品172食分
3月13日（日）	仙台医療から宮城病院へ	食料品300食分
3月13日（日）	花巻病院から釜石病院へ	食料品300食分
3月14日（月）	仙台医療から宮城病院へ	灯油18ℓ 18缶
3月14日（月）	盛岡病院から釜石病院へ	食料品360食分
3月15日（火）	仙台医療から岩手病院へ	食料品150食分
3月16日（水）	西多賀病院から宮城病院へ	乾電池80本
3月16日（水）	山形病院から宮城病院へ	乾電池131本
3月19日（土）	仙台医療から花巻病院へ	米20袋他食材5品目28箱
3月19日（土）	仙台医療から福島病院へ	医薬品数点
3月21日（月）	仙台医療から宮城病院へ	医薬品タミフル100錠他2点

- ・各病院で不足する物資について、ブロック事務所で調達し、搬送。

3月13日(日)	宮城病院へ	灯油18㍓3缶
3月17日(木)	宮城病院へ	乾電池106本
3月17日(木)	釜石病院へ	医療材料・衛生材料 29品目 約21,000点
3月21日(月)	宮城病院へ	ガソリン55㍓

- ・東北地区で調達困難な物資について、北海道管内の各病院に依頼し、調達、搬送。

3月19日(土)～3月25日(金)の間

八戸病院へ	衛生材料・食料	9品目	128点(総品目の合計数、以下同じ)
盛岡病院へ	医療材料・衛生材料	8品目	68点
花巻病院へ	衛生材料・食料	16品目	311点
岩手病院へ	医療材料他	71品目	1,264点
釜石病院へ	衛生材料・食料	13品目	5,196点
仙台医療へ	医療材料他	12品目	5,379点
西多賀病院へ	医療材料・食料	20品目	1,283点
宮城病院へ	医療材料・衛生材料他	49品目	1,280点
山形病院へ	衛生材料・食料	6品目	771点
米沢病院へ	食料他	14品目	5,081点
福島病院へ	食料他	9品目	2,417点

- ・他ブロック病院と被災病院間の調整を行い、必要な病院への物資の補給を依頼。

3月18日(金)

盛岡病院へ	食料他	19品目	6,410点(総品目の合計数、以下同じ)
仙台医療医療へ	食料他	31品目	43,465点

- ・物資の搬送にあたっては、交通網の悪化及び燃料不足のため、ブロック事務所による運搬を実施するとともに、比較的被害の少ない病院から被災病院への搬送。

- ・北東北は盛岡病院、南東北は仙台医療センターを物資運搬拠点とし、被災病院への物資の搬送。

- ・被災病院への物資搬送についてあらゆる手段を講じて搬送。



【北海道管内病院からの物資到着】



【雪の中の搬送作業】

## 5. 被災病院に対する人的応援態勢の確立

・地震発生直後より、災害拠点病院である仙台医療センターが機能するよう、ブロック事務所職員を派遣し、エレベータが使用できないため患者給食配膳作業、被災患者対応等の支援を実施。

・被災病院に対し人的派遣の必要性について、地震発生後速やかに確認、調整。

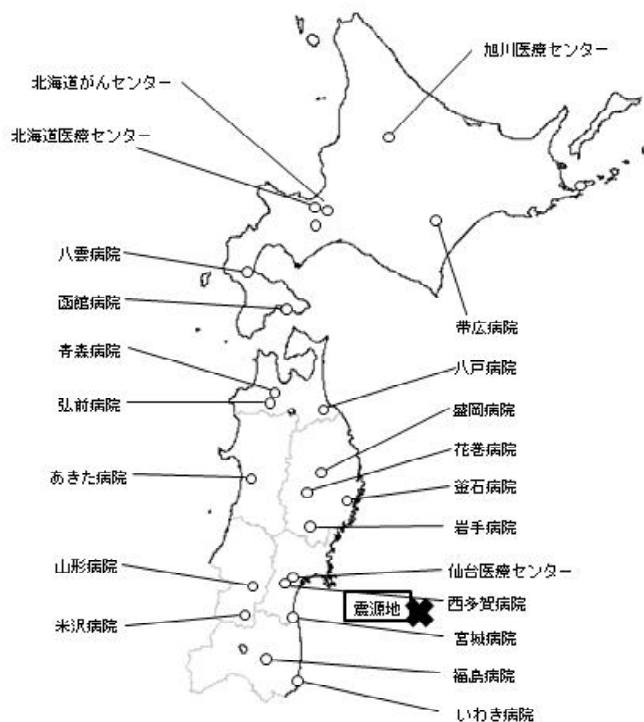
・3月13日（日）～14日（月）にかけ、ブロック事務所職員5名をライフライン等特に被害の大きかった宮城病院へ派遣し、患者給食配膳作業や避難住民の避難場所の設置等の作業支援を実施。

・仙台医療センターと調整し、宮城病院へ医師3名を派遣。

・看護師派遣を本部要請し、近畿ブロックから仙台医療センターへ看護師7名及び宮城病院へ看護師6名の看護師応援体制の確立。

・機構本部医療班と連携し、各病院医療班の受入調整等を実施。

・東北厚生局へブロック事務所職員を派遣。



【震源地と北海道東北ブロック管内病院の配置図】